

アトランティス 《施工要領》

JAS 認定工場

樹種	オーク・バーチ・アッシュ・ウォールナット ハードメープル・チーク・スギ・ヒノキ
品名	アトランティス／プランク12・15（根太工法用）
種類	基材に合板使用（低ホルムアルデヒド）
施工方法	根太貼工法
寸法	12×80・140・215×1,820（塗装品） 12×90×909（塗装品） 15×80・140・215×1,820（塗装品）

1. 運搬及び集積

- 生産工場よりコンテナもしくはトラックなどにより施工現場にむけて運搬する。
- 到着日及び時間等に付いては現場監督との打合せにより決定すること。
- 雨降り、雪などの天候の悪いときの搬入はなるべく避けること。
- 搬入は他業者の作業の妨げにならないようにし、建築物に悪影響を与えないように作業を進めること。
- 集積場所についても現場監督と打合せにより場所を確保し集積する。
- 集積場所についてはフローリングに悪影響を与えないところ（漏水・熱・重量物の落下）に集積する。
- 搬入並びに集積については、必ず床工事責任者立会いとする。

2. 下地及び施工手順

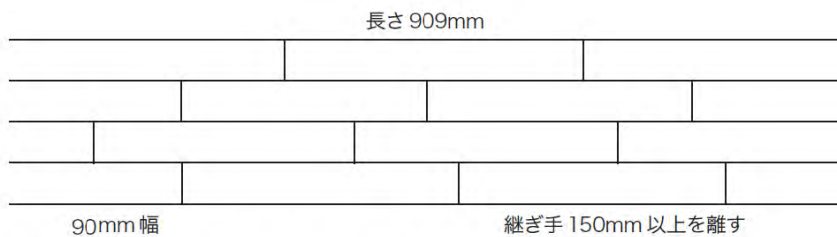
《下地》（根太下地）

- 下地板（コンパネ等）はタイプ1の厚さ12mm以上のものを使用して下さい。
- 木根太の場合は、使用される材料は十分に乾燥したもので、仕上げ材を張込むのに必要な強度を有するもので、根太間隔は300mm程度とし均等に配置し、その上に捨板を張り込む。
- 鋼製下地の場合は、木根太同様に仕上げ材を張込むのに必要な強度を有するもので、所定の防錆処理を施したものとし、根太間隔は300mm程度とし均等に配置し、その上に捨板を張込む。
- 床下地にあっては平滑でたわみ・段差・床鳴りが無いものとし、捨板の仕上がり面をフローリングの厚み分だけ下げて下さい。

《施工》

- 張込みに先立ち、板の割付を行い、原則として室内中央から両側に張り進め、隣接するフローリングの継ぎ手に、150mm以上離して通りよく並べ（下図参照）サネ等を損傷しないよう雄ザネ側より、およそ45°で釘打ちして下さい。
- 根太貼用接着剤は、環境対応済み（F☆☆☆☆）のエポキシ樹脂系接着剤（二液タイプ）を使用して下さい。

- フローアー釘は、フローリング専用のスクリュー釘か、ステーブルピンを使用して下さい。釘留の際は、300mm 程度の間隔で捨板を突き抜けるように止めて下さい。また、捨板の上に遮音マットを使用する際は、釘の長さを 41～45mm 程度のものを、捨板に直接施工する際は、釘の長さを 36～41mm 程度のものを使用して下さい。
- 施工時の収まり等に付いて、壁・敷居ぎわ等には、床材の伸びを吸収するため、2～4mm の隙間をもうけ、巾木・エキスパンション・コーキング等を使用して隙間を隠して下さい。(隙間に巾木・エキスパンション・コーキング等を行う場合には、指定によります。)



※フローリング幅を 90mm・長さ 909mm で表示しております。

3. 養生

- 湿度の高い現場の場合、施工後にフローリングが湿気を吸収して伸びや突き上げを起すことがありますので、湿気がこもらないようにして下さい。
- また、小石、金属片、脚立などによる塗装面への傷を避けるため、できる限り養生シートなどで塗装面を保護するようにして下さい。
- 施工用接着剤がフローリング表面についた場合は、固まる前に濡れた雑巾で拭き取って下さい。(硬化してしまうと取れなくなります。)

4. お手入れ方法

- 日常のお手入れはから拭きとし、水拭きはしないで下さい。汚れがひどい時は中性洗剤を含ませた雑巾を堅く絞ってから拭き取って、その後、水で濡らした雑巾を堅く絞って、洗剤を拭き取って下さい。
- また、フローリング表面を長時間水に濡らしたまま放置すると、変色・シミ・ひび割れの原因になりますので、速やかに拭き取って下さい。
- 重量物(ピアノ等)をおく場合は、脚部に敷板等を敷き、重量を分散させて下さい。
- ワックスは木床用樹脂ワックスをご使用ください。
- 美装の際は、ブラシマシン等は、フローリング表面を傷つける場合がありますので、絶対使用しないで下さい。
- また、フローリングに過剰に水分がかからないように注意して下さい。伸びや突き上げ・剥離の原因になります。